

公益財団法人 日本交通公社 出版物のご案内

当財団では、調査・研究の成果を出版物として公開しています。ここで紹介している本はオンライン書店のアマゾン (amazon.co.jp) で POD (プリントオンデマンド印刷) 方式の出版物として発行しています。他、当財団ホームページや書店で購入いただける図書があります。

- **オンライン書店 (amazon.co.jp)** / POD (プリントオンデマンド印刷) 版の他、一部書籍は、紙の書籍、電子書籍版を販売しています。
- **当財団ホームページ (http://www.jtb.or.jp)** / 賛助会員様は一部を除き会員価格でお買い求めいただけます。
- **書店** / 一部の出版物は、書店、政府刊行物センター、官報販売所・取扱所などでご購入いただけます。

旅行年報 2015 (2015年10月発行)



1978年創刊の年報。観光に関する各種統計資料および当財団独自の調査結果をもとに、おおむね過去一年間の動向を概観しています。「日本人の旅行市場」「訪日外国人の旅行市場」「観光産業」「観光地」「観光政策」の5編で構成。経年で見ていただくことで時代の変化を読み解くこともできます。ホームページでも全ページ公開中です。

旅行産業論 (2016年2月発行)



立教大学、㈱JT B総合研究所、当財団を中心に構成される「立教大学観光学部旅行産業研究会」。その研究会が、立教大学の講義内容をベースとして旅行業の体系的な整理を行い、書籍化したものです。実務的内容にとどまらず、旅行業全体を学術的かつ俯瞰的視点から解説しています。旅行業の分析、考察にも、ビジネスモデルを学ぶにも好適な1冊。

平成27年度観光地経営講座 講義録 (2016年3月発行)



「観光地経営の8つの視点」と実践「地域はインバウンドをどう捉えるか?」——地域主体の戦略を考える——をテーマに開催された講座の講義録です。今回は「市場創出(新たな魅力と市場をつくる)」に焦点を当て、特にアジアを中心とするインバウンド市場への対応について学びました。本書は、その中から観光庁、岐阜県、白馬村、しまなみ海道の取り組みについての講演内容と総括ディスカッションを収録しています。

2015年度温泉まちづくり研究会 ディスカッション記録 (2016年6月発行)



2015年度に開催した研究会の記録です。第1回「黒川温泉の魅力の根源にせまる〜黒川の「ふるさとらしさ」はどこから生まれるのか〜」。第2回「温泉地と災害を考える(第1部:日本の温泉地と火山活動の現状と予測。第2部:火山と向き合う温泉地の現場から)」。第3回「温泉地の雇用と人材の問題を考える」。

当財団からのお知らせ

● 学術研究機関指定のお知らせ

当財団は2016年4月27日、文部科学省より学術研究機関の指定を受けました。これを機会に、これまでの受託調査や自主研究・事業に加えて、学術研究機関としてふさわしい観光研究に尽力し、観光文化の振興に一層努めてまいります。

● 事務所および「旅の図書館」移転のお知らせ

このたび、当財団は2016年8月22日(月)より左記の住所に移転することとなりました。なお、「旅の図書館」につきましては、同住所にて2016年10月3日(月)より開館いたします。

新住所：〒107-0062 東京都港区南青山2丁目7番29号 日本交通公社ビル

● 「第26回旅行動向シンポジウム」開催のお知らせ

日時：2016年11月1日(火)・11月2日(水)〈予定〉

会場：日本交通公社ビル(東京都港区南青山2丁目7番29号)

『旅行年報2016』(2016年10月発行予定)の内容を中心に、旅行市場や観光産業、観光地、観光政策の動向を当財団の研究員が解説します。

シンポジウムの詳細は、ホームページ(<http://www.jtb.or.jp>)で順次ご案内させていただきます。

次号予告

(231号) 2016年10月11日発行予定

特集：旅の図書館リニューアル開館記念

「観光の研究と実務に役立つ図書館」を目指して

本号は当財団事務所・「旅の図書館」移転後最初の発刊号となることから、新しい「旅の図書館」の施設や蔵書の他、観光研究者や実務者におすすめの図書、観光地における図書館の新たな取り組みなどについて特集します。観光の研究や教育の現場、観光の実務などにおいて役立つ新しい「旅の図書館」の役割や方向性をご紹介します。

「研究員コラム」の紹介

当財団のホームページに掲載している、最新15本のリストです。各研究員の経験と視点と個性から綴られたコラムをぜひご一読ください。毎週月曜日の更新です。

- | | | |
|---------|---|--------|
| No. 293 | 観光分野における我が国の国際貢献 | 菅野正洋 |
| No. 294 | スポーツと観光 ～東京マラソン、地方のマラソンに参加して | 久保田美穂子 |
| No. 295 | 旅行は“行ったことのないところに行く派”? “知っているところにもう一度行く派”? | 五木田玲子 |
| No. 296 | まちづくりと観光事業の間にある壁⑤ | 後藤健太郎 |
| No. 297 | 旅行収支にみる産業としての教育 | 塩谷英生 |
| No. 298 | 遠くのひとに声を届ける | 清水雄一 |
| No. 299 | YouTube で見られる戦前の国内観光地 | 外山昌樹 |
| No. 300 | ニュージーランドの森で考えた ～kiwiの国の実現力・改善力 | 中島泰 |
| No. 301 | 域内調達率の向上について改めて考えてみる | 西川亮 |
| No. 302 | 熊本地震が観光に与える影響 ―過去の経験から得られたこと、学ぶべきこと | 牧野博明 |
| No. 303 | 売りたいものの“先”にあるもの ～ソフトクリームに隠された秘密～ | 福永香織 |
| No. 304 | 台湾・高雄のMICE | 守屋邦彦 |
| No. 305 | 山梨県立富士山世界遺産センター オープン | 吉澤清良 |
| No. 306 | 仮想現実と観光の未来 | 吉谷地裕 |
| No. 307 | 旅館がインバウンドに対応するために | 相澤美穂子 |